児童園だより

第八号
平成二四年二月十七日発行

東日本大震災復興秋祭り
～福島県男山八幡神社でのボランティア～

今回のボランティアのきっかけは、日頃奉仕頂いている方と民生委員の方からのお誘いでした。そして、職員で話し合い、子ども達にとって必ず良い経験になるという思いや、奉仕してもらうばかりではなく、子ども達が奉仕をする経験も大切ではとの意見から、参加することを決めました。そこで、子ども達に参加希望を聞いたところ、中高生男子六名が集まりました。日程は、十一月四日二十一時に出発、翌日四時に現地到着し仮眠をとり、九時に復興秋祭り開始、十二時頃海辺を視察し、十五時に現地を出発、児童園に帰ってくるのは五日二十三時、といった強行スケジュールでした。

●引率職員より

私は今回のボランティアに関してかなりの不安がありました。長時間の車での移動は大丈夫なのか、体調を崩さないか、しっかりとボランティアが出来るのか、放射能の影響はないのか、現地でけんかせずに協力し合えるか…。事前に子ども達を集めて、やることの内容、スケジュールについて話をした後、私が一番心配していたことを伝えました。

「今回の遠出は決して遊びではない！日頃奉仕して頂いている側として感謝の気持ちを忘れずに、今自分には何が出来るのかを考えて行動すること！軽率な行動はしないように！現時点でやめたいと思っているなら今なら間に合う！誰か辞退したい人はいるか？」

そう尋ねましたが、誰一人として辞退する者はいませんでした。顔つきも変わり、私の不安も少しは解消されました。

当日現地で子ども達がやることは、焼きそば、フランクフルト、牛串焼き、揚げ餃子、唐揚げを調理する事でした。普段見せない顔つきで黙々と作業をしていく子ども達を見ていると私の不安はすぐに消えました。誰一人と文句も言わず、みんなで協力し合ってやっていました。他のボランティアスタッフからも「みんながいなかったらこんなにスムーズ

に流れなかった。本当に感謝している。」とありがたい言葉も頂きました。

予定していた仕事を終え、被災地の視察に行きました。海岸へ近付くにつれ震災の大きさや影響、怖さを知りました。家屋は流され、草木もなく、船が陸に横たわっていました。子ども達も改めて震災の恐怖を肌で感じていました。この経験を決して無駄にせず、自分が感じたこと、思ったことをいつまでも忘れずにいて欲しいと伝え、児童園に戻りました。

子ども達は本当に良くやってくれました。私自身も大変貴重な体験ができました。

●参加児童の声

高校一年生　「ボランティアは辛くなかった。津波の怖さを知った。」

中学一年生　「楽しかった。海に行って、津波の怖さを知った。」

高校一年生　「震災の大きさ、恐ろしさを知ることで良い経験が出来た。祭りの時、震災に負けず頑張っている雰囲気があって良かった。」

高校一年生　「大きな経験が出来て良かった。笑顔が見られて良かった。」

高校一年生　「テレビや新聞では見られない部分を見られて良かった。自分たちが少しでも力になれて良かった。」

高校三年生　「南相馬の人たちに力になれて良かった。」

全員が共通して言っていたのは「また行きたい」という言葉でした。このような経験ができたのも周りの方々の支援があってのことだと改めて感じます。本当にありがとうございました。機会があればまたみんなを連れて行くことができたらと思っています。

軽井沢おもちゃ王国招待

●引率職員より

十一月に軽井沢おもちゃ王国さんから招待され、子どもたちと共に遊びに行かせていただきました。子どもたちにとって遊園地などで遊ぶ機会は少なく、おもちゃ王国さんの招待は楽しみにしている行事の一つです。

遊園地に着いてからは、子どもたちは目を輝かせながら、どの乗り物から乗るか、どこのコーナーで遊ぶかとワクワクしていました。私もそんな子どもたちと一緒に、子どもの頃に帰らせてもらったようでした。園の子どもたちは招待をしていただく機会が多くありますが、それが当たり前になってしまわぬよう、職員共々感謝の気持ちを忘れずにいたいと思います。

●子どもの声

今日は、おもちゃ王国の人が招待してくれたので行きました。おもちゃ王国について、お礼を言うと、中へ入りました。

昼食は食べほうだいでした。おいしかったです。午後は魚釣りをして、ビンゴゲームをしました。ぼくは見事にビンゴしました。そして児童園代表になって商品をもらいました。

楽しかったのでまた招待してもらって遊びに行きたいです。

（四年生男子）

野麦峠スキー場招待

晴天に恵まれた一月二十八日（土）、松本市奈川の野麦峠スキー場の招待を受け、年長児から高校生までの十七名の児童がスキー・そり遊びを楽しみました。昨年度から招待を受けており、二回目となる今年も、子どもたちはこの日をとても心待ちにし、元気に行けるようにと体調管理に気を付ける姿も見られたほどでした。

ゲレンデでは、スキーの技術はさておき、園職員のにわか指導のもと熱心にボーゲンを覚える子ども、直滑降で滑る子ども、上級者コースをものともせず滑る子ども、と皆思い思いの滑りを楽しんでいました。そり遊びの子どもたちも、坂を何度も駆け上がり、体勢を工夫しながら面白く滑る方法を追求して楽しんでいました。疲れも見せず、どの子どもにも笑顔と笑い声が絶えませんでした。

子どもたちは学校行事で経験する以外にスキーを楽しめる機会はなかなか持てないため、スキーウエアからブーツ・板まで道具一式を貸していただき、丸一日遊ばせていただけることは貴重な体験であり、大変ありがたく思います。また、転んでも自分の力で立ち上がろうとする姿、仲間を気遣い、声を掛け合う姿を見るにつけ、スポーツを通して子どもの心の成長が図られることを実感しました。

雪焼けしたその表情のひとつひとつに、充実感とたくましさを見た一日となりました。